

各関係高等学校  
担当教員 様

第63回全国高等学校美術、工芸教育研究大会  
(2026大阪大会) 大会事務局長 内藤 さや  
(大阪府立港南造形高等学校)

## 第63回全国高等学校美術、工芸教育研究大会<2026大阪大会>における 口頭発表および文書発表用の原稿執筆について(依頼)

寒冷の候、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は全国高等学校美術、工芸教育研究大会に対しご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたびは第63回全国高等学校美術、工芸教育研究大会<2026大阪大会>の分科会の発表(口頭・文書)を募集しております。つきましては原稿の執筆募集をご案内申し上げます。

秋の開催となり締切りを1次3月末、不足あれば2次募集を予定しております。ご多忙のところ大変恐れ入りますが、下記要領にてお送りいただきますようお願い申し上げます。

### 記

- 1 ご提出期限 令和8年3月31日(火)(第1次締切りとし、不足の場合は2次募集します)
- 2 内容について 下記3つの分科会のいずれかの内容でお送りください。

<b>第1分科会 Archiveでおわらない【過去】</b> 美術・工芸の世界にもデジタルの波が押し寄せ、アナログな手法はデジタルに相對する、別のものという認識になっていないか。ICT教育先進国が脱ICTを決断したニュースもある今だからこそ、美術教育におけるアナログで得られる教育的効果やその必要性を討議する。
<b>第2分科会 Art思考と鑑賞教育【現在】</b> 「Art思考」(新しい価値観の発見・課題の気づきや問題提起)や、「Design思考」(デザイン的な構想や問題解決の提案)が、ビジネス分野の流行語のように使われる中、それをどのように学び、本質的な在り方を確立すればよいのか。鑑賞分野での学びと紐づけて教育的効果やその重要性を討議する。
<b>第3分科会 AIと共に【未来】</b> 進化の勢いが止まらない生成型AIはすでに様々な場面でその有効性が明らかになっているが、ゼロから1を生み出す美術・工芸の世界では、生成型AIはどのような存在になるのか。作者のツールなのか、アドバイザーなのか、ライバルなのか。生成型AIがもたらす様々な未来について教育的効果やその可能性を討議する。

### 3 執筆原稿の書式

(ア)文書原稿(PDF、Wordのいずれかのファイル)

- 用紙 A4縦 2または4ページ 余白 上下35mm 左右28mm
- 文字数:45 行数:39 基本フォント:MS明朝 10.5pt (必要に応じMSゴシック)

(イ)写真、図版等のデータ(JPG、JPEG、PDF)

- 解像度 350dpi程度
- 画像のキャプション等がある場合は分かるように記入してください

※ 文章中に写真がある場合、添付もお願いします

(ウ)データ送信前に、左記フォームへ必要内容をお送りください。

→→→

(エ)メール送信時、タイトル「R8大阪大会 応募(〇〇県)第〇分科会」と記載ください。



### 4 送付方法

下記送信先までメールでお送りください。容量が大きく送信できない場合は、ギガファイル便などのファイル転送サービスからファイルをお送りください。

### 5 その他

文書形式は以前の全国大会冊子をご参考にしてください。

口頭・文書発表の希望に添えないこともあります。ご了承ください。

【メール送信先】2026大阪大会 編集部 松田 剛志(大阪府立池田高等学校)

[T-MatsudaTsuy@medu.pref-osaka.ed.jp](mailto:T-MatsudaTsuy@medu.pref-osaka.ed.jp) または [t-matsudatsuy@e.osakamanabi.jp](mailto:t-matsudatsuy@e.osakamanabi.jp)

【問い合わせ先】2026大阪大会 大会事務局長 内藤 さや(大阪府立港南造形高等学校)

[T-NaitoS@e.osakamanabi.jp](mailto:T-NaitoS@e.osakamanabi.jp) または [maeda.383@gmail.com](mailto:maeda.383@gmail.com)